

# 「海と空」投稿規定

## 1. 投稿文の種類

投稿文は論文、総合報告、短報、広報記事の4種類とする。

(1)「論文」は海洋と気象双方またはいずれか一方に関する研究、調査、試験結果の報告で、新規性・独創性があるもので、未発表の原著論文。

(2)「総合報告」はある分野の論文や学説などを基に総括・議論したもので未発表のもの。

(3)「短報」は速報的な研究、調査試験結果の報告で、未発表のもの。

(4)「広報記事」はイベントの開催案内、研究員公募などで編集委員会が適当と認めたもの。

この他、本学会の目的に添うもので、編集委員会が適当と認めた原稿も受け付けることができる。

## 2. 投稿資格

論文・総合報告・短報の投稿は原則として海洋気象学会会員に限るが、特に編集委員会が認めた場合にはこの限りではない。共著者に会員以外の研究者を含むことは差し支えない。広報記事は会員以外からの投稿も差し支えない。

## 3. 投稿にかかる経費と原稿の長さ

投稿料は無料である。掲載が決定した場合、モノクロ印刷かつ原稿の長さが以下の規定内であれば掲載料は無料とする。

原稿の長さは、論文・総合報告・短報は印刷ページで12ページ以内、広報記事は1ページ以内とする。これらを超える場合は1ページあたり1万円の費用を徴収する。またカラー印刷の場合は原稿の長さにかかわらず、別途経費を徴収する。

## 4. 原稿の書き方

執筆要領参照

## 5. 原稿の提出方法

原稿と図表、投稿申請書(様式1)を編集委員会に提出する。

原稿および図表は、それぞれ論文については3部、総合報告・短報は2部、印刷したものを提出する。ワープロ等で原稿を作成した場合には、電子ファイルも併せて提出する。

発送の際には、別途Eメールで学会事務局に投稿原稿を送付した旨の連絡をすることを推奨する。

投稿申請書(様式1)には、原稿の種類、標題、著者(全員)の名前と所属、代表者の連絡先を記載する。

原稿の宛先は、下記事務局とする。

〒550-0001 大阪市西区土佐堀 1 丁目 4-8 日栄ビル 703A

有限会社 あゆみコーポレーション

海洋気象学会事務局

e-mail(海洋気象学会) : umitosora@k2.dion.ne.jp

〃 (あゆみコーポレーション) : info@a-youme.jp

TEL.06-6441-4918 FAX.06-6441-2055

## 6. 論文の受付, 審査, 変更, 採否

論文については 2 名の, 総合報告及び短報については 1 名の専門家による査読を行い, 編集委員会が採否を決定する. 査読の結果によっては編集委員会から著者に原稿の修正を求めることがある. 著者は修正を求められた場合には 1 か月以内に編集委員会に修正原稿を返送しなければならない.

## 7. 最終原稿

- ・投稿論文の採用が決定された時には, 最終原稿を印刷したもの 1 部と電子ファイルを編集委員会に提出する. 編集委員会が最終原稿を受け取った時点で受理とする. 可能な限り図表も電子化したものを提出する.
- ・掲載は原則として受理された順に行うが, 編集の都合で前後することもある.
- ・受理された論文等の表題, 本文, 要旨, 図表の変更は原則として認めない.
- ・提出された原稿, 電子媒体の返却は原則として行わない.

## 8. 校正

初校正は著者が行い, 以後は編集委員会に委任するものとする. 著者校正において大幅な修正は原則としてできない.

## 9. 別刷

第 1 著者に無償で 50 部の別刷を進呈する. 50 部以上の別刷を希望する場合には実費 (送料を含む) を徴収する. 初校正結果の送付の際に事務局に希望部数を連絡する.

## 10. 著作権

「海と空」に掲載されたすべての文章の著作権は, 海洋気象学会に帰属する.

## 11. 適用

本規定は 2013 年 4 月 1 日より適用する.

(様式1)

## 「海と空」投稿申請書

海洋気象学会 「海と空」編集委員長殿

氏名 \_\_\_\_\_

所属 \_\_\_\_\_

海洋気象学会機関誌「海と空」に下記原稿の投稿を申請しますのでよろしくお取り計らい願います。

申請日： \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

### 記

標題： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

著者： \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

原稿の種類： 論文 総合報告 短報 広報記事 その他  
(該当するものを丸で囲む)

連絡先：氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

e-mail アドレス \_\_\_\_\_

## 「海と空」執筆要領

### 1. 標題、著者名、要旨等

原稿の第1ページには以下の5項目について記述する。これらについては別途第2ページに英語表記のものを記述する。

1. 標題
2. 著者名, 共著者名, . . .
3. 第1著者の所属機関と住所 (連絡先)
4. 共著者の所属機関
5. 要旨 (約400字以内)
6. キーワード (5語以内)

### 2. 本文の構成

第3ページ以下に本文等を記述する。本文の基本的な構成は次のようなものであるが、著者の判断で変更しても差し支えはない。

1. はじめに (序論)
2. 使用データについての記述
3. 解析結果
4. 考察 (議論)
5. まとめ
6. 謝辞
7. 参考文献

### 3. 単位

数値, 単位は半角英数文字を使用し, 数値と単位の間は半角スペースを入れる。単位はSI単位を使用し, 分数標記 (m/s など) せず, 指数標記 ( $\text{m s}^{-1}$  など) とする。

塩分 (実用塩分) の単位はなしとする (psu は使用しない)。

### 4. 書式設定と文字

用紙はA4縦置きで, 上下, 左右の余白はそれぞれ30 mm以上として, 1行35~40字, 1ページの行数は25行程度とする。ページ番号を必ず付ける。行番号も付すことが望ましい。

使用する文字は, コンピューターの機種により文字化けが発生する可能性があるため, 漢字コードは第二水準以内の文字を使用する。

### 5. 引用文献

著者が2人以下の場合には全員の姓を書き, 発表年を記す。著者が3人以上の

場合は第1著者に「ほか」(和文論文)または「et al.」(欧文論文)をつけ、発表年を記す。引用文献の表示は次の例による。学会の大会(発表会)等の予稿集は一般的には査読を受けたものではないので使用しない。

本文および文末の引用文献欄での使用例

例(本文中)

高橋(1962)は……, 大島・三宅(1990)は……, 佐藤ほか(2007)は……  
Sudo(1986)は……, Ueno and Yasuda(1992)は……, Ono et.al.(2007)は……

例(文末引用文献欄)

Ono, K., K. I. Ohshima, T. Kono, M. Itoh, K. Katsumata, Y. N. Volkov and M. wakatsuchi (2007): Water mass exchange and diapycnal mixing at Bussol' Strait revealed by water mass properties. *J. Oceanogr.*, 63, 281-291.

大島慶一郎・三宅秀男(1990): 北海道南方陸棚域および噴火湾における風による循環に関する数値的研究. *海と空*, 66, 53-66.

佐藤政俊・河野時廣・川崎泰寛(2007): 夏季の北部根室海峡における風による宗谷暖流の流入過程. *海の研究*. 16. 455-470.

Sudo, H. (1986): A note on the Japan Sea Proper Water. *Prog. Oceanogr.*, 17, 313-336.

高橋浩一郎(1962): 過去300年間のA級暴風雨. *天気*, 9, 277-283.

Ueno, H and I. Yasuda (2003): Intermediate water circulation in the North Pacific subarctic and northern subtropical regions. *J. Geophys. Res.*, 108. C02012, doi:10.1-29/2003JC002222.

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/index.html>

(注: 上記はWebの引用の場合)

## 6. 図表について

図表の挿入希望位置と図の大きさ(幅: 片段または全段)を右余白に記入する。編集の都合で希望に応じられない場合ある。

図表の内容はすべて英語で表記する。図の説明も英語表記として、別紙にまとめる。

図表は印刷時の大きさを考慮して、線の太さ、文字の大きさ、陰影の濃度(配色)等に注意して作成する。

ワープロなどで図と文字で混成する場合には、印刷時に文字が正常に表示されない場合があるので、PDFに変換して異常のないことを確認のうえ、PDFファイルを提出する。